

春の彼岸によせて

平成二十二年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

「二つの感謝」

感謝には二つの感謝があります。物を頂いたり認めてもらったり、ほかから自己に向けられたことに対するものと、自己のうちよりこみ上げてくるものです。

ほかから自己に向けられたことへの感謝は、一時的であり、相手や周りの状況、心の状態によって大きく変化します。一喜一憂は人間味があつてよいかも知れません。しかしそれは自己の想定内で起こる変化を無意識のあいだに定めての言葉です。その証拠に、一喜一憂が大切という人も想定外のこと起きると慌てふためいて冷静さを失い、その考えはどこかへ吹き飛んでいるものです。

また、ほかから非難されたり、無視されたり物を搾取されたり、不利益なことが起こると、憎み、妬み、怒り、その上、疑念疑惑が次々と湧き出てくるものです。今の今まで感謝をしていた心が一瞬に憎しみと変化しているものです。

そこから人の心は他を陥れるための作を練ったり、周りにあることないことを中傷して歩いたり、鬼になり邪になり留まるところを知らないように悪心が大活躍しその心に自分自身苦しみ始めます。その頃には感謝していたときの心すら忘れ果てています。

人の心はこれ程感謝とは程遠い、別物に変化していくものです。

それに対し、自己のうちよりこみ上げてくる感謝は自己の外に影響されず、常に感謝の心で安定しています。

うちなる感謝には佛智が必要でです。生活のなかで起きる様々な出来事に対し、どのような悪心がでてしまうかを自己分析し、悪心の原因をお経の中より探すと、自己の心の未熟な部分が浮き彫りとな

ります。未熟な心を教えて頂いたら次ぎに、その部分を養うお経を頂きます。心の成長を頂いた分だけ悪心が治まってきます。

見下されたり無視されたとき、また意地悪をされたときなど、多くは相手の人間性を非難するものです。しかし相手に原因を求めず自分にすべての原因があるとお経に説かれているように、その原因を自分に求めお経を頂くと、より高い目標とそれに向うための常精進の尊さに出会わせて頂きます。

このように家庭や職場での出来事が、自己を高める場と受け入れるならば、日々多くの自己の至らない心に気づけるものです。至らない自己に気づけば気づく程、周りのすべての方々や日々起こる出来事にうちからの感謝が湧き始めます。

お経を読み説かれている通りに行動するだけで、大きな大きな佛さまに出会い、深く壮大な佛心ぶつしんと佛智ぶつちに出会わせて頂き、自己の心を磨かせて頂きます。お経とはそれほど心に平安を運んで下さるかたです。

春の彼岸、ご先祖さまには心を込めて、「ご先祖さま、何卒ご成佛ぶつを」と念じ、自己には「心の未熟な所、気づかせ頂きたし」と念じお経を頂く習慣が根づけば知らず知らずのうち己おのれのうちよりの感謝が増え、家庭は円満に向かい子孫繁栄が約束されるでしょう。うちなる感謝のない家庭に心の安穩あんのんはあり得ません。